

第23回一関市景観審議会 会議録

- 1 会議名 第23回一関市景観審議会
- 2 開催日時 令和6年9月30日（月） 午後1時30分から午後5時まで
- 3 開催場所 一関市役所2階 議会棟議員全員協議会室
- 4 出席者
 - (1) 委員 北原啓司委員（会長）、三宅諭委員、阿部新一委員、佐々木賢治委員、村上恵志委員、小野寺健委員、橋本温子委員、加藤一典委員、原田哲委員、高橋系子委員
※欠席者 菊池薫委員、伊藤周平委員、阿部忠委員、廣中勝之委員
 - (2) 事務局 阿部健一建設部長、千葉義昭建設部次長兼都市整備課長、佐藤高志課長補佐兼建築指導係長、佐々木智行都市整備課建築指導係主査、菅原梨恵子都市整備課主任技師
- 5 議 事 第13回一関市景観まちづくり賞の審査について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 1名（うち報道機関1人）
- 8 委嘱状交付
委員の変更による変更委員の紹介と次期委員へ委嘱状を交付した。
- 9 阿部健一建設部長（市長代理）挨拶
本日の審議会では、「一関市景観まちづくり賞」の審査を行います。この賞は、景観まちづくり条例に基づき、良好な景観の形成に寄与した市民や団体を表彰するもので、「景観部門」と「まちづくり活動部門」の2つの部門で構成されており、市民、事業者、団体の景観に対する意識を高め、質の向上を図るための重要な取り組みとなっています。
本日は、「まちづくり活動部門」への応募はありませんでしたが、景観部門に応募のあった3件について、まずは現地をご視察していただき、その後選考をお願いしたいと思います。それでは、限られたお時間ではございますが、何卒ご協議のほどよろしくお願ひ申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。
- 10 諮問書の伝達
第13回一関市景観まちづくり賞の審査について千葉次長から北原啓司委員（会長）に諮問書を手交した。
- 11 議 事
現地視察の後、事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 「松栄堂の庭園」を作った時からずっと見てきた。長い間充分手入れをされていて、皆さんに喜んでもらえるようなものをこれまで維持してきたということであれば受賞で良いと思う。

委員 今回庭園と言うことでの応募だったが、実際、現地で皆さんと拝見した。写真にもあるように蔵も非常に良い形で、景観の一翼を担っていると思う。建物も含め、景観賞に十分ふさわしいと思う。

委員 いつも地主町側から入っていて、裏側から見た松栄堂は今回初めてだった。裏側からの景色を見ることができて感心した。もっと、多くの方にみていただける様にPRすれば更に良いと思う。昔、表側から入って大きなガラス窓の所に座りお茶を薦められたことがあった。その時見た景色は資料の写真の景色だった。そこしか知らなかったが、裏の工場がなくなり、駐車場ができて、裏からの景色を今回初めて見た。景色として、とても良いと思った。こういう所でお茶を頂けばちょっと優雅な気分になると思った。もっと広く皆様にお披露目すれば良いと思う。自由に行けるような雰囲気であればもっと良かったのではないかと思う。反対ではないが、景観賞として「地域に寄与する」という意味ではもう少し住民にアピールすることも必要ではないかと思った。

委員 松栄堂さんはこの庭園で、もともとお菓子を作ってお菓子をお菓子屋さんが、昨今、洋菓子におされた部分もあり、それから季節を楽しむ文化が少なくなってきたというところもあり段々と和菓子の需要が減ってきたと思う。庭を見ながら、お菓子を食べてもらおうということをやりたいというので、このような庭を造ったという話を聞いたことがある。

ほとんどの人が表側から入ってお菓子を買って帰っていただけなので、ここで庭を見てお菓子を頂くというのはあまり皆さん機会が無いかもしれない。囲われているので外からはなかなか見づらいかもしれないが、このような景観を造って、景観とお菓子を一緒に楽しむという経験をすることは、例えば自分のうちの庭をもう少し綺麗にしようというような考えにもつながっていくと思う。もう少しきちんと手入れしてほしいと思ったが、賞としては良いと思う。

委員 私は一関に住んでいるが、いつも地主町側からお菓子を買って帰るだけで、よもやこういう庭園が広がっているとは気づかなかった。奥の方にこういう甘味処があったということも今日知った。お店の中から、コーヒーとかお茶とか頂きながら見る景観はとても素晴らしく、1人で何か飲み物を飲みながら憩えると感じた。今度、友達と一緒に庭をみながらお茶をしようと思った。

委員 皆さんのおっしゃる通り蔵も含めてすごく景観的に良いし、賞として相応し

いと思い現地を見てきたが、一つ二つ意見がある。庭の隣に工場があったが、何か目隠しとか工夫があればより良いと思った。蔵も地震対策なのか、鋼材で対策などされていたが、今後ずっと蔵も含めた一体的なものとして保存していく為には、お金がどうしてもかかってしまうので難しい所もあると思うが、維持管理を工夫していただければより良いと思った。

委員 受賞に反対ではないし、皆さんのおっしゃる通りだと思っている。私の妻も、最近この「景観賞」を知って私に紹介してきたこともあった。松栄堂の庭園は庭として松とかの樹木のバランスが良いと思いながら中を歩いた。私の父が庭木を残して亡くなった。その庭の手入れをどうしたものかと思っていたが、「こういうふうに剪定すれば良いのか」と感じて、良いと思った。

委員 全体としてすごく良いと思った。先ほど、ご意見も出ていたが、駐車場側にもう少し工夫がされてくるとさらに良くなると思った。これまで、地主町側があつて、庭園があり、この駐車場がある。今後、工夫されることを期待して賞として推しても良いと思った。

議長 ありがとうございます。一委員として意見を述べると、選考基準の(4)景観づくりに対して先導的な役割を果たしているという観点から、この松栄堂さんは、表側ではなくて裏側からの景観を考えているという点で、今までにはない事例だ。応募の名称が「庭園」となっているが、これがもし奥にあったなら、道路から見えないので景観賞をあげにくい。しかし反対側に裏口をつくり、裏口からでもしっかり見える形で藍色の垂れ幕をして、アプローチで左側の方から入っていくと遠くの方に緑が見える。覗いてみたくなるような気持ちにさせる。後ろの方にも顔を作っているという話は、景観の賞として今まで、一関にはなかった気がする。裏から写真を撮ってすぐに、一関出身の妻に送った。妻は「ここはどこ？」と驚いていた。やはり、地主町側からしか見ていなかったようだ。もちろん車で来るので、駐車場は仕方がないが、単なる駐車場になってしまう所にあのような形で、もう一つの顔を作ったという意味で言うと、景観賞としては、庭園も立派だが、庭園の方に近づけてくれて景観にするために庭園をしっかりと開放してくれている。あそこに入らないと見えない庭園ならば、「あそこに入ってお茶を飲み、それで景観賞なのか」という意見も出るだろうが、そういった努力も含めて皆さんからご意見もあつたように景観賞に相応しいのではないかと思う。もし可能であれば、今回の賞の物件の名称が「松栄堂 総本店 庭園」となっているが、褒めたいのは、裏からのアプローチを含めた建物・蔵、その景観がすばらしいということである。先ほど他の委員よりご意

見もあったが、これから駐車場も含めて、もっと裏か表かよくわからないくらい魅せてくれたら楽しいと思う。そういったエールを含めて今回は全会一致で選んでよろしいかと思う。そういった庭だけではなく、景観として考えていく場合の空間づくりみたいなものは褒めてあげたい。最初の物件は受賞で良いか。この松栄堂さんについては「第13回一関まちづくり賞」として選びたい。

議長 では、二つ目について話し合いたい。芝桜が見えない時期で残念だったが、あの空間に、もし咲いていたらと頭で想像しながら、資料の写真を見ながら、という形の評価になるが、意見を伺いたい。

委員 これは非常に素晴らしいと思う。20年以上にわたり、少しずつ植えて、しかも外から見えるように植えられている。これは誰でもできるかと言うと絶対私には無理だ。これはもう敬意を表して申し分ないと思う。これだけ丁寧に咲かせるのは難しいと思う。

委員 私が現役の時は、ここは通勤路だった。当時はこんなには咲いていなかったからご夫婦の努力を考えると受賞だと思う。

委員 他の委員からもお話があったが、20年以上に渡って面積も1,500平米と、とても広い面積をご夫婦でやってこられたということは大変素晴らしいことだ。先ほどの話でもあったが、時期で見られないという状況は残念ではあるが、賞としては相応しいものとする。

委員 この花を育てる努力。それから車窓から見える景色が人々を楽しませる。そういうことに対して評価をしたい。ただ残念だったのは、盛んに花が咲き誇っている時にやっぱり見たかった。圧巻だったと思う。

委員 この面積の草取りは大変だろう。どうしても種は飛んでくるし、鳥が持ってくる。その中で、雑草が生えないわけがない。この写真を見る限り、雑草が伸びているところが見られないというのは、大変なご苦労だと思う。その努力に敬意を表したい。

委員 皆さんのいう通りとても素晴らしいお庭だと思う。先ほど、事務局からお伺いしたが、70代のご夫婦が手入れをしているという状況であれば、これから先、何年やっていけるのかと心配だ。せつかくの素晴らしいこの景色がもっとこれからも続き、みんなの目を楽しませてくれるような景観が続くようであれば良いと思う。昨年受賞した水口公園のように、その地域の人達が一緒になって取り組んでいけるような、そんなお庭であれば良いと思った。ただ、この姿を見ていると「創意工夫、努力により優れた景観を創出しているもの」(2)に該当すると思う。

委員 大変すばらしい活動をされていると思った。しかもこれが個人でされているということが特筆に値すべきことだ。例年であれば活動部門でこういった応募がなされているわけだが、私の記憶のある限り、個人でこれほどのすばらしい植栽を、一生懸命守られているというのは、今までになかったのではないかと思う。他の委員もおっしゃっていたが、今後、地域にそういった運動が広まっていけばさらに良いのかもしれない。いづれにしても受賞に相応しい物件だと思う。

委員 まずこの写真を見て、ずいぶん綺麗に造られていると思った。ただ、今日現場に連れていってもらって、咲き誇っていた名残というか全く何もなかったので、秋も何か植えてくれれば良いと思った。

議長 ありがとうございます。確かにおっしゃる通りだ。ただ、今は咲いていないが、これだけ工夫し努力されている景観をいつか見てみたい。同時に向こうに見えるような雰囲気もあって、初めて見たが、これに賞をあげない訳にはいかないと思う。もう一つ言えば、景観部門でノミネートされているが、まちづくり活動部門でも賞をあげても良いと思う。良い景観を作っているし、まちづくり活動としてもいつもは20人から30人くらいのグループだが、今回はご夫婦でやられている。ダブルであげても良い位の賞だと感動した。まちづくり活動部門の応募は今回なかったので、そちらの部門でも評価したいと思う。我々はそれだけ評価していると表明したい。

つまり、松栄堂さんもあのようなものを作っていくというのは、つまり造園される方が手伝って出来ているが、「阿部庭園」は、20年間2人の活動でできている。美しく造って、なおかつ地域に対しても景色として提供し、活動していて、先ほど他の委員もおっしゃっていたが、もしこの方々がお歳を取られてきた時に、地域でこれを持続できるのかという点で地域に対してのエールも含めて地域づくりの方でも、褒めたい。

委員 写真のため池は、大変大きいですが、地域の人達が使われているため池か。それとも、個人のものか。

事務局 個人のもので、池に花が映るので大変すばらしい。

委員 会長に賛成。両方でも良いと思う。

議長 最後の段階でもう一度考えたい。どちらの賞をあげても良いぐらいの活動で褒めてあげたいという気持ちだけお話ししておく。2つの賞を出すことについては問題ないと思う。

では、次の「大夫黒」だが、それについて審議したい。

- 委員 歴史をこのように皆さんに意識づけるということ。それがまちづくりで、通りのイメージを決定づける様な役割をすと思うと、選考基準(3)の「歴史や文化が感じられ、地域に親しまれているもの」となるし(4)の「景観づくり対して先導的な役割を果たしているもの」でもあると思う。
- 委員 この「大夫黒」が「一ノ谷の合戦」で源義経と戦ったというドラマチックな歴史に感動した。その「大夫黒」が千厩産であることを千厩の人々が自信を持ってPRしているのが良いと思った。そしてその「大夫黒」で地域を活性化しようというその努力もすばらしいと思った。
- 委員 千厩町の千厩の地名の由来は、藤原氏の時代に軍馬を千頭飼っていて、千の厩があったということからきている。それを代表する「大夫黒」という軍馬ということで非常に地域の人達が相当な費用をかけて建造したと言うことであれば、先ほどご意見もあった通り、千厩の人達がこれを心のよりどころにして、その地域に対する誇りや歴史を考えていくという意味では、景観賞だと思う。
- 委員 私は、これは「景観部門」というよりむしろ「まちづくり活動部門」の方が相応しいのかと思ったが、選考基準を確認したところ、皆さんもお話されたように(3)歴史や文化が感じられ、地域に親しまれるものであるので良いと思う。
- 委員 千厩という地名から、馬の産地であるということのを再認識した。町のシンボルとして「大夫黒」が周りに溶け込んでいるように思えた。ちょうど良い空間もあり腰かけて馬をみながら一休みするというのも良いと思った。余談だが、馬の馬体の材質を聞いて安心した。もし材質がブロンズとか金属製だったなら、この時代いろんな危険なことも考えられるので、そうでないことを聞き安心した。
- 委員 地域の人達の思いがあるということ。5年前ということだが、先輩たちの意思を継いでいこうということで、地域に愛されてこれからも愛して頂けるものと感じるので、受賞で良いと思う。
- 委員 私の地元の千厩のことだが、70歳になる私でさえ千厩が馬産地だったということには疎い。そうした時に、その歴史的なことを皆で千厩の自慢にしようではないかとの思いがあり、それを皆さんにご理解していただいているようで、ほっとしている。
- 委員 これは悩ましい。ただ、途絶えた活動をもう1回再結成して取り組んできているということの後押ししたいという気持ちがある。「景観賞」なのか、「まちづくり活動部門」なのかを考えていた。せつかくこういうものが立ち上がったので、このポケットパークそのものをもう一度しっかりデザインし直すこと

をお願いしたい。出来上がった時には、「景観賞」だろう。

議長 私も全く同じ考えだ。これこそ本当に「まちづくり活動部門」の賞としてどうなのか。千の歴史があったという歴史を皆が大事にしながら、若い人達にも知ってもらいたいと皆でお金を集めて活動したというのは、まちづくり活動以外の何物でもないと思う。資料の写真を見ると若者たちが写っている写真がある。この雰囲気を見てとても良いと思った。若い人ももちろん年配の方も含めて「この馬って凄かった馬なのだよ」とわかるような形で作ったこの活動そのものは絶対褒めてあげたい。だから「景観部門」というよりも「まちづくり活動部門」としてあげた方がいろいろな意味で良いのではと思う。先ほど、他の委員もおっしゃっていたが、「大夫黒」がせっかくできたので、ポケットパーク全体がもう少し工夫できれば良いと思う。デザインの賞より活動としてすばらしい。その方が皆も納得するのかなと思った。賞をあげたいのだが、もしかしたら誤解されないためには、「皆さんがやってくれたことでこうして景観がつくられているということがすばらしい」という話で賞をあげた方がスッキリする気がする。皆さんいかがか。

委員 同感である。これが建つ前のポケットパークというのは、何もなくて非常に寂しかったような気がする。シンボリックなものができたという意味では、若干「景観賞」みたいな雰囲気もあると思ったが、やはりその地域の方々が、これをシンボルにして歴史から自分たちの郷土に対する思いとかそういう意味では、「活動部門」として差し上げた方が今後の活動にも繋がっていくと思う。今後のポケットパークをさらに良い形で整備して頂くことを期待する。

委員 「大夫黒」を作るために頑張った人たちを知っている。すごくがんばっていた。

議長 今ならクラウドファンディングもあるが、その当時を考えると資金集めは大変だったと思う。

委員 話があって、作ることに資金を出すのにも反対の人がいる中で、その方々は一生懸命だった。

議長 そういう意味で、こういうのがいろいろ景観の活動なのだと思う。いつも花を植えるとか、整備するという活動もあったが、こういった歴史をちゃんと皆で思い出せるような、こういったモニュメントを作るといことも景観の活動として先導的な役割ということではないか。

委員 「大夫黒」を作っただけでなく、この活動について「大夫黒物語」のようなものを作り、地域の市民センターや老人のデイサービスの行事で披露する活動

もしている。

議長 まさにそれが活動だと思う。それの方が多面的にできそう。やはり活動として褒めて差し上げることはとても大事だと思う。表面的な景観だけでなく活動を含めた景観という形で活動部門賞を作った背景から言えば、そちらの方が多分良いような気がする。3番目については、「まちづくり活動部門」の方で賞を差し上げるという形で決めたいがいかがか。

一同 異議なしの声あり。

議長 次に2番目の芝桜は、咲いている時に見たのなら間違いなく景観賞となったかもしれないが、活動部門として、景観賞としてもすばらしい。市民にアピールするためにも、この際両部門で表彰するという話もないわけではない。

委員 良いと思う。さらに言うならば、この資料の写真の道路の土手のところだが、将来ここにも芝桜が植えられたらどうなるのか。もっと広がって、地域にも広がっていく可能性を秘めているように感じた。

議長 その期待感がある。この活動が大変であろうことを教えるためにも、単純な景観賞というよりも少しアピールした方が苦勞を考えたら良いと思う。

委員 今のうちに指導いただいて、株分けしてもらって、少しずつ植えたら良いと思う。

委員 あの地域に活動を広げていただくという期待感もある。

委員 可能性もある。

議長 かなりあると思う。そういう意味も含めていかがか。

委員 私は自治会長もやっているが、自治会で作る花いっぱい運動の花壇の管理を輪番でやるのだが、水やりとか草取りとかそれを運営するだけでも大変なので、あの集落でそれを担うとか、好きな人たちが集まってきてやると言うなら話しは別だが、これだけの面積を2人でというのはとんでもないと思う。

委員 本当に毎日ここに這いつくばっていないといけないと思う。

委員 草取りが大変だと思う。

議長 この方ご自身は、庭園の仕事をされている方なのか。

事務局 土木系の仕事をしていたようだ。

議長 土木だと、別に花に強いわけじゃないのか。

議長 もしも、皆さんに異論がなければ、今回この2番については、今までの景観賞でも2人でやってきて、しかも20年やってきてらっしゃるという活動として、すごい尊敬に値する活動だ。そして、長く良い景観を作り出していただいているということで、ダブル受賞の形でよろしいか。

一 同 異議なしの声あり。

委員 先ほど、秋の景色が寂しいという話があったが、コキアとか植えたら良いのではないか。

議長 表彰式の時、そんな意見があったが秋はどうかと伝えたらどうか。

委員 コキアは夏青くて、秋になると真っ赤になる。それを皆で刈ってホウキを作るなど良いと思う。

議長 では、審査員としては、2番目に関してはダブル受賞という形で決めたい。今回の審議については応募が少なかったが、すごく良いものを見せてもらった気がする。先導的なものもあったし、活動としてもあった。全て賞に値するって形は満場一致だった。今回は、松栄堂については、裏にも景観があるということをしっかりやった上で表と裏があるおかげで真ん中に庭まで見えてくる。表の景観と裏の景観でそんな風に二つの景観を持っているという辺りを評価したい。

二つ目については、念押しになるが、両方の賞をあげるべきとの総意である。地域としてしっかりとこれからもこういったものを皆で守って行ってほしいとの気持ちを含めた地域づくり活動として、地域に広がっていくことを祈念して選んでいくということ。3番目については、景観の方で応募がきたが、やっていることは活動としてすごくやってらっしゃるってことは褒めるべきなので、そういう形で褒めてあげたい。今回は三つに対して、賞としては四つになるが差し上げるという形で私たちとしては結論が出た。

12 答 申

北原啓司会長から市長に答申した。

答申の内容は、令和6年9月30日付け都第06071号で本審議会に諮問された第13回一関市景観まちづくり賞の審査について、慎重に審議を深めた結果、下記の通り選考し答申する。

13 担当課 建設部都市整備課